

仕事人秘録

「下請けから脱却したい」という切実な相談が寄せられた。2013年のことだった。

静岡県島田市にあるイトーという会社です。主に日清紡績の下請けとして活動する一方、紡績機械にまつわりつく綿ぼり除去製品なども作っていました。紡績業が低迷するなかでの生き残り策の相談で、2回目の面談で妙策が思い浮かびました。

そのころ、家具の裏側などにあるコンセントに綿ぼりがたまり、火災の原因になることが問題になっていました。家庭にも綿ぼり対策のニーズがあると聞いたのです。

イトーの綿ぼり除去製品は系列などに関係なく日

行列のできる経営相談所 ②

富士市産業支援センター長
小出 宗昭氏



販路を絞ってヒットした「ほこりんぼう！」

中心となって、ネーミングやパッケージなど価値を伝えるための工夫をアドバイスしました。

商品名は「ほこりんぼう！」。信用金庫の仲介で出展した展示会で狙っていた東急ハンズのバイヤーの目に留まりました。年末に新宿のハンズで実演販売したところ大きな反響があり、すぐに全店販売が決まりました。

乱売に巻き込まれなくなってきたので販路を絞りましたが、14年の発売から8万枚を販売しています。先月から米ロサンゼルスでの販売も始まったとのことで、「お掃除の楽しさ」を世界に発信しています。

「ほこりんぼう」中小に誇り

報告書を出せば予算が入ってくる仕組みになった

本中の紡績工場で使われていました。品質管理が厳しい紡績工場で培った技術が活用できるのではないかと綿ぼり除去の細かな繊維を狭い所にも届くスティック状にして商品化しました。

当時専務だった伊藤正一さんがげん顔をされていたのが印象に残っています。伊藤さんとしては「終

ズ」の杉本副センター長が

内容を講演やテレビ出演な

を通過して積極的に説明してきました。「地方には磨けば輝く技術と会社がある。埋もれていてはもったいない」と考えたからです。

「地域活性化伝道師」なども務め、中小企業支援や町づくりなどについて提言を続けています。

行政が手掛ける創業、産業支援は残念ながら失敗するケースがあります。目標管理が甘く、危機意識も欠かしていません。

報告書を出せば予算が入ってくる仕組みになった。相談者と同じ目線でセルスポイントを的確に捉え、相談者にも認識してもらう。成功に向けた戦略と戦術を共に練り、実現に向けて一緒に挑戦する。そして具体的なわかりやすい「結果」を出すこと。これが産業支援では重要な点と確信しています。